

の一般的な雰囲気は、「法人化、望むところではないか」というところではないかと私は思う。

### 2.3 総合科学技術会議

総合科学技術会議は、各省より一段高い立場から、科学技術政策の企画立案及び総合調整を行うことを目的とし、2001年1月、内閣府に設置された。内閣総理大臣が議長を務めている。諮問に応じ答申するのみならず、自ら意見具申できることが大きな特徴である。詳細は以下を参照。

<http://www8.cao.go.jp/cstp/index.html>

環境研は、総合科学技術会議の重要性に鑑みて、内閣府総合科学技術会議事務局（正式には内閣府政策統括官（科学技術政策担当）付）参事官（環境・エネルギー担当）のポストに、環境研の研究部長級の研究者の人材を環境研のポストを維持したまま、出向させることに決めた。立ち上げの1年半ほどは、生物圏環境研究領域長の渡邊 信氏がその役を勤めた<sup>11</sup>。総合科学技術会議環境分野の活動の一環としての地球温暖化研究イニシアティブに、私も資料作成などで部分的に

かかわっている。気象学の研究にとって、総合科学技術会議の存在が間接的のみならず直接的に大きなものになってくる可能性があると感じる<sup>12</sup>。

<sup>12</sup> 本シンポジウム終了後の2003年3月には、「総合科学技術会議地球温暖化研究イニシアティブ気候変動研究分野報告書」として、以下の本が出版された。「地球温暖化研究の最前線—環境の世紀の知と技術2002—」（総合科学技術会議環境担当議員、内閣府政策統括官（科学技術政策担当）共編；財務省印刷局発行）

この本の構成は以下のとおりである。

- 第1部 地球温暖化問題研究へのわが国の取り組み
- 第2部 温暖化問題はどこまで解明されてきたか
  - 第1章 地球の温暖化は本当に起こっているのか—地球観測が示すもの—
  - 第2章 気候モデルと温暖化の予測
  - 第3章 地球温暖化の影響とリスク
  - 第4章 温暖化抑制政策の評価

以下のホームページ参照。

[http://soil.en.a.u-tokyo.ac.jp/cstp/GW\\_report/index.htm](http://soil.en.a.u-tokyo.ac.jp/cstp/GW_report/index.htm)

<http://kanpo.net/>

気象学会会員では、松野太郎、住 明正、野田 彰、井上 元、山本 晋の諸氏等が、執筆陣に名を連ねている。

<sup>11</sup> 本シンポジウム終了後の2002年7月からは、気象学会員でもある、環境研の笹野泰弘大気圏環境研究領域長がその任を勤めている。

## 新刊図書案内

表 題	編 著 者	出 版 者	出版年月	定 価	ISBN	備 考
百万人の天気教室	白木正規	成山堂書店	2003.09	¥2,800	4-425-51109-3	2002年刊に次ぐ8訂版
ことわざから読み解く 天気予報	南利幸	日本放送出版 協会	2003.10	¥680	4-14-088084-8	
新ひとりで学べる地学 I	大塚韶三 青木寿史 荻島智子	清水書院	2003.10	¥1,750	4-389-20132-8	「新ひとりで学べる地学IB」の新教育課程版
なる本 気象予報士	森田正光 大野治夫	週刊住宅新聞 社	2003.10	¥1,300	4-7848-0362-9	2002年刊に次ぐ改訂第4版
気象 FAX の利用法	クライム	クライム	2003.11	¥3,000	4-907664-46-X	昭和52年初版の改訂新版
四季の海洋気象がわかる本	中井俊介	成山堂書店	2003.11	¥1,600	4-425-51191-3	

注：表中で定価はすべて本体価格です（特記したものを除く）。